

角 永：自然 に対 する 別 の 見 方

文・ DAN R. GODDARD

Express-News Art Writter

ミニマリズムは、金曜日にサウスウェストクラフトセンターとブルースターアートスペースで2つのショーが開かれる角永和夫の彫刻で、日本の禅と「渋い」の概念を満たしています。角永は、木、紙、竹、絹などの天然素材を使用し、わずかな変更を加えるだけで自然の美しさを引き出しています。しかし、彼の単純な熟考の対象は一見複雑です。たとえば、SWCCのエミリーエドワーズギャラリーに展示されている「Wood No. 5T」という作品は、ギャラリーの床に横たわっている、樹皮を剥がした丸太のように見えます。ただし、詳しく調べると、はるかに複雑なことがわかります。角永は、家族が杉林と製材所を所有している石川県に住んでいます。彼はベニヤスライサーと呼ばれる機械を使用して、杉の丸太を一枚の紙よりもそれほど厚くない長いストリップにカットしました。次に、壊れやすいストリップが丸太の形で接着されました。これは、木の壊れやすさについての微妙なコメントです。

天 然 素 材

コーパスクリスティにあるサウステキサス美術館の有益なカタログで、角永氏は次のように述べています。「私は美しいオブジェクトを作成することに興味がありません。私が興味を持っているのは、天然素材の自然の美しさを発見して開示することです。当然のことです。私が絵画でそれらを研究し始めたとき、私は木の素材を直接操作して、木を当然のことと見なすのではなく、木のさまざまな見方を探求する必要があると決めました。」彼の微妙でありながら根本的な天然素材の変化は、メキシコ、ヨーロッパ、米国で数多くのショーを開催し、国際的な評判を獲得しています。彼の作品は、ニューヨークの概念運動から生まれた最小限の芸術または還元的な芸術に関連していることがほとんどです。1970年代。しかし、それは実際には、日本の中世の内戦、大きな貧困の時代に生じた古代日本の概念、渋いの産物です。キュレーターのマイケル・ローレンスによると、「(渋い)は渋い味として定義することができます。'この収斂性は、厳しくな

く厳格であることを意味します。禅仏教と渋いは、の有名な石庭を生み出しました。

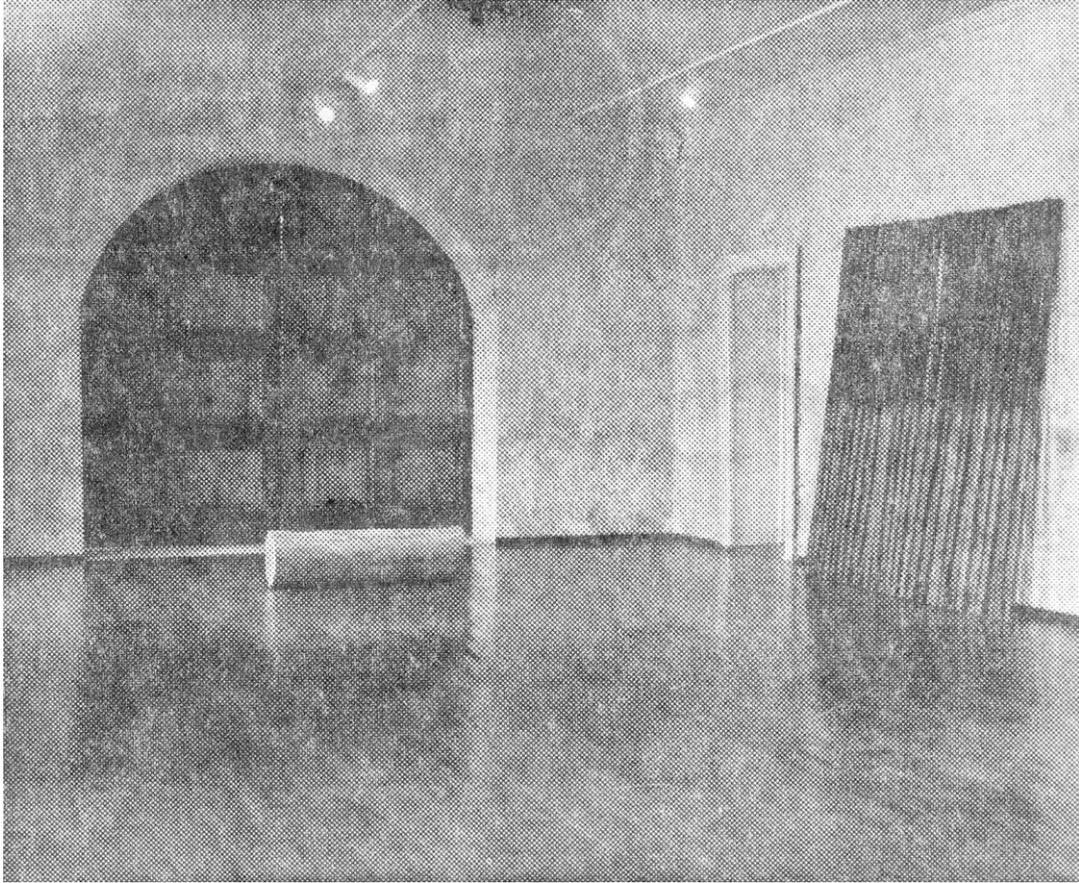
龍安寺、演劇なし、尺八（竹笛の音楽）、俳句の詩形式。たとえば、渋いの風景画では、葉や一本の枝の表現が木全体を連想させていました。「このミニマリズムは、今日私たちが呼んでいるように、差し迫ったアーティストのイサム・ノグチの作品についてまさに言われていることです：素材の自然な傾向に従い、潜在性を引き出すために最小限の仕上げのみを追加し、形と品質。」

角永は、日本のミネコ・グリマーと国島征二、そしてアメリカ生まれのアン・タカヨシ・ページという、自然素材を使った他の3人のアーティストとしばしば付き合っています。素材との親密さや、自然現象に見られる豊かさへのつながりを共有しています。彼らの見解は、1950年代の具体または「具体派」運動と、その後、もの派または「オブジェクト」グループという、日本の初期の2つの運動に関連しています。角永はまた、「コンセプチュアル・アーティストは合理主義者ではなく神秘主義者である」と述べたアメリカ人アーティスト、ソル・ルウィットの影響を認めています。

木は角永の最も広く使われている素材であり、一般的に彼の家族の山林からの杉やオークや松です。再組み立てされた丸太のほかに、角永は、焦げた、木目を露出させるために分割された、または手漉きの紙にされた木材を使った他の作品で知られています。紙の層状のシートは、一般的な使い捨て製品の出所を思い出させる彫刻的なオブジェクトを形成します。彼は芸術家のマークではなく、木目に注意を向けようとします。しかし、昨年のニューヨーカーでの長い記事を含め、最も注目を集めているのは、養蚕、生糸の生産、カイコの飼育に関する彼の最近の仕事です。彼はカイコのために複雑なフレームを作り、それから彼らの繭のパターンを制御します。養蚕業は4世紀まで中国から日本文化に吸収されるようになりました。蚕に桑の葉の伝統的な食餌を提供する角永は、特別に構築された格子状の杉のフレームに10万ものものを放出します。

彼らは上に向かって移動する傾向があるので、彼らが落ち着くのにかかる48時間で、角永と彼の助手は頻繁にフレームを回してワームをだましてすべての空きスペースを埋める必要があります。それらの紡績は、絹の製造と同じように蒸気によって止められるので、繭の長い絹糸は、出現する蛾によって壊されることはありません。

角永の、自然の真の奇跡



角永和夫の彫刻は天然素材を使用しており、
「Wood No.5 T」（左）や「Bamboo No.1 A」など。

養蚕の彫刻は時間を凍結し、天然素材だけでなく自然のプロセスの複雑さと不思議を明らかにします。木や竹を使った他の作品では、角永の微妙な操作が自然物のパターンと叙情性を高め、見る人を自然界と直接対峙させます。

角永は英語がほとんど話せないので、妻の由美子が同行します。オープニングは午後6時から8時まで開催されます。金曜日のSWCCと午後8時から10時角永の作品42点を展示するブルースターアートスペースにて。詳細については、224-1848までお問い合わせください。

モンタナのアーティスト、テオドールワデルは、11月3日まで、彼の「トロフィー」、頭蓋骨、皮革、油絵の具の厚い塊のグロテスクでしばしば陽気な構造のショーのためにリードストレンメルギャラリーに戻ってきました。ワデルは、彼の豊かに描かれた表現主義的な牛と馬の力で全国的な評判を築いてきました。フルタイムの牧場主と芸術家としての2つのキャリアを組み合わせ、ワデルはまた、珍しい一連の衝撃的な彫刻で動物の皮、蛇の皮、鳥の死体を使用しています。

動物の姿に加えて、トロフィーは人間の形もあります。たとえば、農夫は、ぬいぐるみのように壁に取り付けられたギミーキャップをかぶっています。

識別しやすい

しかし、私のお気に入りには、IBM Selectric タイプライターの胸を持つ男の頭である「Writer Trophy」です。はい、私はこの男がどのように感じているか知っています。

ウサギとコヨーテはワデルの最近の絵画のいくつかに姿を隠していますが、「ブルスネーク」には威嚇するような西洋の魅力が満載です。「ドライランドトラウト No.1」や「タンブルウィードラダー」では、干し草やタンブルウィードが珍しく使われています。

アメリカの家畜の彼の素晴らしく青々とした絵に加えて、ワデルはまた彼の仕事 af にもっとエキゾチックな野生生物を加えました。最近のアフリカ旅行。象とシマウマには、エネルギーと生命に満ちたワデルの独特で感情的なレンダリングが与えられます。ワデルの作品が最近マリオットコーポレーションとアメリカンアカデミーアンドインスティテュートオブアーツアンドレターズに買収された理由は簡単に理解できます。

100 W.オルモスドライブにあるリードストレンメルギャラリーは、午前9時30分から午後6時30分まで営業しています。月曜日-土曜日。詳細については、828-7454までお問い合わせください。